

主な事業	放送業
発電に使用した燃料	ガソリン
地域への取組	災害放送発信

地震による停電の中、情報収集に大きな役割を果たしたのがラジオである。地域のコミュニティ放送局「F Mアップル」（株式会社エフエムとよひら（中目明德代表取締役））では、蓄電池・発電機で電源を確保し、停電時に災害放送を発信（9月6日3時30分頃～8日18時）。スタッフ自ら地域をまわって情報収集し、被害状況、避難所、給水所などの最新情報を伝えた。塚本薫放送局長は、「地域FM局の使命として、『何としても放送を諦めない』という一心だった。」と話す。

「F Mアップル」では、今後、「平成29年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金（※）」を活用し、基地局を整備するとともに、SDGs（注1）が課題とする経済・社会・環境に力点を置いた事業を行う。その中で、今後はBCP計画を策定し、防災講習会の開催など、「住み続けられるまちづくり」に資する事業に取り組んでいく方針。

（注1） Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）。

先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする17の目標を設定。



発電機にガソリンを入れる様子



SDGsにおける17の目標

※ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金の詳細については、以下の北海道中小企業団体中央会ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.h-chuokai.or.jp/index.html>（本年度の募集は終了しています。）